

令和6年度滋賀県立大学一般選抜試験(後期日程)の出題誤りについて

1. 対象入試の概要

試験実施日 令和6年3月12日(火)
試験科目 理科(化学)
合格発表日 令和6年3月22日(金)
学部学科 人間文化学部 生活栄養学科
受験者数 36名
合格者数 11名

2. 出題誤りの内容

化学(大問Ⅲの間4)において、図1、図2の3つのグラフが作図誤りのため、正解を導き出せないものとなっていました。

3. 判明の経緯

令和6年6月17日(月)に外部から当該問題に関する指摘があり、学内での検証の結果、出題誤りであることを確認しました。

4. 受験者に対する対応

合格発表後に出題誤りが判明したため、当該問題(大問Ⅲの間4)について受験者全員を正解として再度採点を行い、改めて合否判定を行いました。その結果、当初の合否からの変更はありませんでした。

5. 再発防止に向けた対応

入試問題作成にあたっては、学内において複数人が複数回チェックを行っていますが、図(グラフ)の確認作業が不十分であったため、誤りを発見することができませんでした。

今後、原因調査を徹底して行うとともに、再発防止に努めてまいります。

本件に関するお問い合わせ先
滋賀県立大学 教務課入試室
TEL:0749-28-8243
E-mail:nyushi@office.usp.ac.jp

滋賀県立大学 令和6年度一般選抜試験個別学力検査（後期日程）
理科（化学）大問IIIの間4

問4 図1は、下線部(c)で温度を800 Kにした後の反応過程における各物質の物質量の時間変化である。以下の i), ii) に答えよ。

(誤り) 物質x (水) の生成量が、メタン消失後も増加し続けている

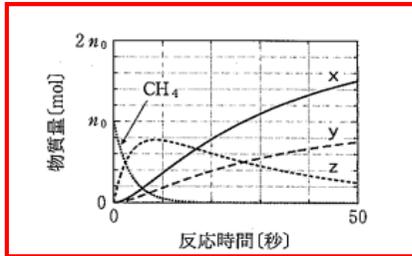


図1 反応過程における物質量の時間変化

- i) 図1は、メタンおよび三つの物質 x, y, z について示している。x, y, z が示す物質を化学式で記せ。
- ii) 式1の反応の速度定数 k_1 のみが4倍となる触媒、および式2の反応の速度定数 k_2 のみが4倍となる触媒を使って同様の実験を行ったところ、容器内の物質量の変化の様子はそれぞれ図2のようになった。触媒を変える前の式1、式2の反応速度をそれぞれ v_1 と v_2 とするとき、 v_1 と v_2 の大小関係として最も適切なものを(A)~(C)から一つ選び、記号で答えよ。選んだ理由も記せ。

- (A) v_1 の方が大きい (B) v_1 と v_2 は同じ程度 (C) v_2 の方が大きい

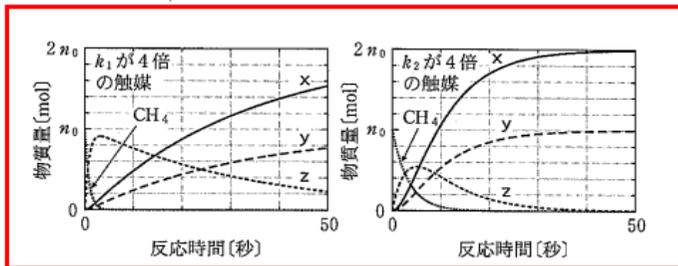
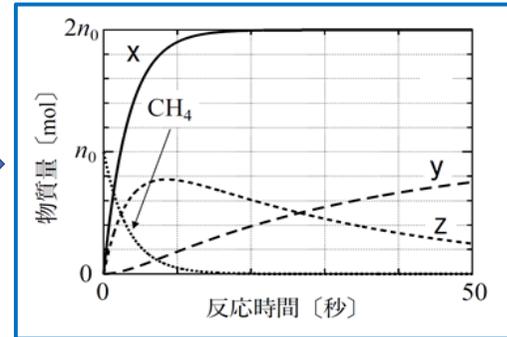


図2 触媒の種類を変えたときの物質量の時間変化

(誤り) 物質x (水) の生成量が、メタン消失後も増加し続けている

正しい図



正しい図

